

目 次

第1章	はじめに	1
1.1	本研究の位置づけと目的	1
1.2	研究対象と問題提起	3
1.3	方法論	7
1.4	本研究の構成	10
第2章	先行研究	13
2.1	「状態変化動詞」に関する記述	13
2.1.1	動詞の意味分類における「状態変化動詞」	13
2.1.1.1	アスペクト・動作様態の観点からの分類	13
2.1.1.2	意味内容に基づく分類 : Duden (1973)	18
2.1.1.3	意味素性に基づく細分類 : Helbig (1983)	19
2.1.1.4	複数の特性に基づく分類 : Ballmer & Brennenstuhl (1986)	21
2.1.1.5	結合価辞典における意味分類 : Schumacher (1986)	24
2.1.1.6	親縁関係に基づく意味分類 : Sommerfeldt & Schreiber (1996)	26
2.1.2	1つの意味クラスとしての「状態変化動詞」	29
2.1.2.1	<i>break</i> 型動詞と <i>hit</i> 型動詞 : Fillmore (1970)	29
2.1.2.2	「状態変化動詞」クラスとその周辺 : Levin (1993)	30
2.1.3	「外的状態変化動詞」と「内的状態変化動詞」	33
2.1.3.1	語彙的意味表示に基づく区別 : Levin & Rappaport Hovav (1995)	34
2.1.3.2	コーパス調査および心理言語学的実験による検証の試み : McKoon & Macfarland (2000), Wright (2001)	35
2.2	「使役交替」における派生関係	39
2.2.1	他動詞化・使役化 (自動詞→他動詞) の立場	41
2.2.2	脱他動詞化・反使役化・脱使役化 (他動詞→自動詞) の立場	44
2.2.3	派生関係を認めない (自動詞 他動詞) 立場など	46
2.2.4	2つの使役タイプを想定した上での他動詞化の提案	49
2.2.5	ドイツ語の「使役交替」における2つのパターン	51
2.3	先行研究のまとめ及び評価	54

第3章	リストアップと統語的分類	57
3.1	「状態変化動詞」のリストアップ	57
3.1.1	「状態変化動詞」の規定	57
3.1.1.1	「様態動詞」と「結果動詞」	59
3.1.1.2	「位置変化動詞」と「状態変化動詞」	61
3.1.1.3	「状態変化動詞」の様々な意味タイプ	66
3.1.2	辞書の語義記述に基づく「状態変化動詞」のリストアップ	70
3.2	「状態変化動詞」に関連する統語的現象	74
3.2.1	自動詞における現在完了の助動詞選択について	74
3.2.2	他動詞における状態受動の形成可能性について	76
3.3	「使役交替」の観点による「状態変化動詞」の分類	79
3.3.1	使役交替動詞の認定条件	79
3.3.2	ドイツ語「状態変化動詞」の4つのグループ	86
3.4	本章のまとめ	89
第4章	意味的分析	91
4.1	使役交替が見られない動詞	92
4.1.1	絶対他動詞	92
4.1.1.1	「手段」が動詞形態に明示されている場合	95
4.1.1.1.1	「(状態変化を引き起こす) 行為」が明示されている場合	95
4.1.1.1.2	「(状態変化を引き起こす際に用いる) 道具」が明示されている場合	99
4.1.1.2	「手段」が動詞形態に明示されていない場合	101
4.1.1.2.1	「移動物」が明示されている場合	102
4.1.1.2.2	「結果状態」が明示されている場合	103
4.1.1.2.3	「結果物」が明示されている場合	105
4.1.1.2.4	副次的語義としての行為が含意されている場合	106
4.1.1.2.5	現実世界の有様が関わる, その他の場合	108
4.1.2	絶対自動詞	112
4.1.2.1	人間の関与が想定できない事柄を表す場合	114
4.1.2.2	人間の関与が想定できる事柄を表す場合	119
4.1.3	まとめ	121
4.2	使役交替が見られる動詞	122
4.2.1	他再動詞	123
4.2.1.1	使役的用法 (他動詞用法)	123
4.2.1.2	非使役的用法 (再帰用法)	124

4.2.2	他自動詞	129
4.2.2.1	使役的用法 (他動詞用法)	129
4.2.2.2	非使役的用法 (自動詞用法)	130
4.2.3	他再動詞と他自動詞の意味的相違	135
4.2.3.1	事態解釈における「潜在的使役主」の有無	135
4.2.3.2	状態変化の意味内容的特性の相違	139
4.2.4	使役交替の意味関係が認められる絶対他動詞と絶対自動詞のペア	143
4.2.5	まとめ	146
4.3	本章のまとめ	146
第5章	コーパス分析	151
5.1	コーパス調査の概要	152
5.1.1	調査の目的	152
5.1.2	調査対象の動詞	153
5.1.3	データ収集方法およびその再検討	154
5.1.4	調査の手順	159
5.1.4.1	各動詞文における状態変化の主体	159
5.1.4.2	〈他目〉と〈自主〉・〈再主〉の取り出し	159
5.1.4.3	〈他目〉と〈自主〉・〈再主〉の対応	163
5.1.4.4	「名詞+動詞」の2語検索による確認および修正	166
5.2	使役交替が見られない場合	169
5.2.1	〈使役的表現〉のみの場合	169
5.2.2	〈非使役的表現〉のみの場合	183
5.2.3	まとめ	190
5.3	使役交替が見られる場合	191
5.3.1	〈使役的表現〉の割合が高い場合	195
5.3.2	〈非使役的表現〉の割合が高い場合	210
5.3.3	〈使役的表現〉と〈非使役的表現〉の割合に大きな差がない場合	216
5.3.4	まとめ	220
5.4	本章のまとめ	220
第6章	おわりに	223
6.1	本研究のまとめ	223
6.2	今後の課題と展望	228
	参考文献	233

資料	241
【資料 1】 ドイツ語「状態変化動詞」のリスト	241
【資料 2】 ドイツ語「状態変化動詞」の4つのグループ	245
【資料 3】 絶対他動詞	249
【資料 4】 絶対自動詞	260
【資料 5】 他再動詞	265
【資料 6】 他自動詞	270
【資料 7】 形容詞派生の他再動詞と他自動詞	275
【資料 8】 使役交替の意味関係が認められる絶対他動詞と絶対自動詞のペア	276
【資料 9】 各状態変化動詞と結びつく名詞（状態変化の主体）	278
【資料 10】 第1次データで「使役交替」が見られたコロケーション	283
【資料 11】 第1次・2次データで〈使役的表現〉のみ見られたコロケーション	285
【資料 12】 第1次・2次データで〈非使役的表現〉のみ見られたコロケーション	287
【資料 13】 第2次データで「使役交替」が見られたコロケーション	289
【資料 14】 「使役交替」が見られたコロケーションにおける 〈使役的表現〉と〈非使役的表現〉の割合	291
【資料 15】 状態変化動詞のコーパスデータ（付属 CD-ROM）	293
要旨	295
和文要旨	295
英文要旨	300